

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	下関市立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シモノセキシリツダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中国・四国地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	経済学部
	担当教職員名・役職	柳純(教授)、秋山淳(准教授)、佐藤隆(准教授)、重田美咲(准教授)、嶋田崇治(准教授)、中川圭輔(准教授)、松本貴文(准教授)、森山智彦(特任教員)
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	115	
受入企業等数	99	
受入企業等名	<a href="https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/shusyoku/is_index.html">https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/shusyoku/is_index.html</a>	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	イベント補助、商品企画、顧客対応などの実際の業務、受入企業等が抱えている課題解決、営業同行など。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習、5日間(40時間)以上の就業体験、報告書作成、報告会での発表の4つを全て満たした学生に単位を認定している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	特に国際インターンシップについては、危機管理の講習を行っている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	

	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	マナーや守秘義務、受入企業等に関する理解を促進する講習を実施。また、全体及び1日ごとの目標設定や行動計画策定を行っている。さらに、国際インターンシップは各国の文化やビジネス慣習を理解する講習を別途実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	報告書作成や報告会での発表を通じて、全体及び1日ごとに立てた目標に対する達成度を自己評価し、今後の大学生活や職業選択への活かし方を考察している。加えて、受入企業等からのフィードバック(評価)を踏まえて、自身の長所と課題に対する気づきを促している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教職員が受入企業等を訪問し、研修の視察や担当者、学生と面談を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	社会人基礎力をベースとしたルーブリックを事前学習の中で回答させている。インターンシップ実施後にも同じルーブリックを回答させることで、自分自身の汎用的能力がインターンシップを通じてどれだけ伸びたのかを測定している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間。一部2週間以上。
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間6日間。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	概ね、同一企業等において連続した5日間以上の実施期間を確保したプログラムである。一部の国際インターンシップにおいて、複数企業を訪問し、合計5日間以上となるプログラムがある。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	毎年インターンシップ実施前(4月)に受入企業等を教職員が訪問し、プログラムを見直すことで、絶えず内容の向上を図っている。また、受入企業等には、研修に加えて、学生に対する評価のフィードバックや報告会への参加などで、協力して頂いている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://campusweb.shimonoseki-cu.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?value(risyunen)=2018&amp;value(semester)=1&amp;value(kougicd)=341601710&amp;value(crclumcd)=1810100000">https://campusweb.shimonoseki-cu.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?value(risyunen)=2018&amp;value(semester)=1&amp;value(kougicd)=341601710&amp;value(crclumcd)=1810100000</a>
問い合わせ先	大学等名	下関市立大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	083-252-0313
	メールアドレス	shusyoku@shimonoseki-cu.ac.jp